

<講演会資料>

14：40～15：40 基調講演（特別講演）

『がんになっても力強く生きるためには』

東京医科歯科大学 血液内科 特任助教
リレー・フォー・ライフ・ジャパン御茶ノ水名誉実行委員長
坂下 千瑞子 先生

2005年に米国留学中に脊椎の骨軟部腫瘍を発症し、帰国後に腫瘍脊椎骨全摘術を受け、2度の再発の際には、重粒子線と抗がん剤の大量投与を受けました。その経験から、がん患者の生きる力を支える為には、社会にはまだまだ足りないものが沢山あると気付きました。私自身が生きる力と勇気と笑顔をもらったことで、現在もライフワークとして取り組んでいるリレー・フォー・ライフというがん患者支援、がん征圧活動であるチャリティー活動についてもご紹介したいと思います。

15：50～16：40 同窓生報告

『ふりかえり ～あの頃の私に想うこと～』

医学部附属臨床検査技師学校 11回生
多摩総合医療センター 検査科技師長
小林 真実 氏

時代とともに、働きやすい環境となりました。「見て覚えろ！」と理不尽なことを言う先輩はおらず、測定標準作業書があります。朝一番に来て機械を立ち上げることも、先輩が帰るまで帰れないことも無くなりました。その一方で、もっと学びたいという技師にとっては、早く帰れ、仕事が終わったら職場に居るなどの風潮が、学ぶ機会を減らしているようにも思います。しかし、どの時代においても、その時の立場や環境でベストを尽くすことが大切です。自身の今に至るまでをふりかえり、あの頃の私に想うことをお話しさせていただきます。

『医科歯科と血管と犬と私』

医学部保健衛生学科検査技術学専攻 11回生
東京医科歯科大学血管外科 バスキュラーラボ
加賀山 知子 氏

医科歯科大学に来て私の進むべき道は大きく変わった。私が検査技師を目指したのは細胞検査士になりたかったからだ。そして、医療短大に行き、法医病理と出会った。2001年法医学で生きようと東京へ出てきて、気がついたら生理検査を生業としている。それも血管検査と言うニッチな世界で。そして、一度も医科歯科を出ることなく。学生時代、難研の先生の授業の面白さにはまり、大学院で血管外科と出会い、その後血管の大きな渦に巻き込まれ、とり込まれ、海外にまで行ってしまった。しかし、その初めの一步は「犬」であったことはあまり知られていない。